

三神和子教授 研究業績

著 書

- 1981年4月 分担「ジェイン・オースティンとフィールディング」『ジェイン・オースティン——小説の研究』荒竹出版社、281-297頁。
- 1985年9月 分担「夢見る女たち——エドナ・オブライエン『結婚の歓び』」『現代イギリス文学と女性』荒竹出版社、85-105頁。
- 1989年5月 単著『楽園を求めて——キャサリン・マンスフィールドの研究』高文堂出版社。
- 1992年1月 分担「『ダロウェイ夫人』における瞬間の構築」『ミルトンとその光芒』金星堂、381-393頁。
- 1994年1月 分担「『眺めのいい部屋』——愛のルネッサンス」『イギリス文学における愛の航海者たち』共編、南雲堂、229-246頁。
- 2000年11月 単著『キャサリン・マンスフィールド——世紀末、モダニズム、芸術家』辞書社。
- 2004年3月 分担「ピアトリクス・ポターと博物学ブーム」『ピーター・ラビットは時空を超えて——絵本が語りかけるもの』共編、松柏社、189-210頁。
- 2006年3月 分担「ピアトリクス・ポターの政治活動」『読書する女性たち——イギリス文学論集』彩流社、477-490頁。
- 2011年2月 分担「欧米における「新しい女」の誕生——イギリスの場合」『『青鞥』と世界の「新しい女」たち』翰林書房、183-201頁。
- 2016年3月 分担「キャサリン・マンスフィールドにおけるマオリ同化政策批判」『文藝礼讃——アイデアとロゴス：内田能嗣教授傘寿記念論文集』大阪教育出版社、821-830頁。
- 2017年3月 分担「キャサリン・マンスフィールドにおけるパケハ批判」『オーストラリア・ニュージーランド文学論集』編集、彩流社、105-134頁。
 分担「新生ニュージーランドを目指して——ケリー・ヒュームの『ボーン・ピープル』」前掲書、181-206頁。
- 2020年3月 分担「シャーロット・デスパード——非暴力の闘士」『イギリス20世紀初頭の女性群像』共編、音羽書房鶴見書店、1-30頁。

学術論文

- 1977年3月 「*Between the Acts*の正当性」『Infinity』（津田塾大学大学院 Infinity 同人会）11.
- 1978年3月 “Virginia Woolf’s Vision in *The Waves*” 『英米文学研究』（日本女子大学英米文学研究）13: 31-43.
- 1979年4月 “Jane Austen and Henry Fielding: A Comparative Study of Their Maiden Works” 『Infinity』（津田塾大学大学院 Infinity 同人会）13.
- 1979年11月 「目に浮かんで来るように再現すること——読解力測定とその訓練」『LL 研究室報』（東海大学外国語教育センター第三課程研究室）4.
- 1982年12月 「『遠い声・遠い部屋』の一考察」『文学研究』（津田塾大学大学院「文学研究」同人会）11.
- 1984年3月 「*The Waves*における孤独: BernardとRhodaの場合」『ヴァージニア・ウルフ研究』（日本ヴァージニア・ウルフ協会）1: 34-45.
- 1984年12月 「夢見る女たち——エドナ・オブライエンの三部作について」『文学研究』（津田塾大学大学院「文学研究」同人会）13.
- 1985年5月 「テキスト「理解」の仕組みを考える」『外国語教育論集』（筑波大学外国語センター）7: 15-28.
- 1985年3月 「The Millstone における Rosamund の成長」『Tsuda Inquiry』（津田塾大学大学院英文学会）6.
- 1985年3月 「「閉ざされた自己——トルーマン・カポーティの「ミリアム」をめぐって」『筑波大学医療技術短期大学部研究報告』（筑波大学医療技術短期大学部）7: 13-20.
- 1986年11月 「「一杯のお茶」—キャサリン・マンスフィールドの人間観について」『南半球評論』（オーストラリア・ニュージーランド文学会）3: 106-109.
- 1987年3月 「「幸福」における窓辺の風景——キャサリン・マンスフィールドについての一考察」『筑波大学医療技術短期大学部研究報告』（筑波大学医療技術短期大学部）8: 39-48.
- 1987年12月 キャサリン・マンスフィールド「園遊会」における庭」『文学研究』（津田塾大学大学院「文学研究」同人会）15:.
- 1988年3月 「キャサリン・マンスフィールド「前奏曲」における庭」『筑波大学医療技術短期大学部研究報告』（筑波大学医療技術短期大学部）89: 13-33.
- 1988年3月 「キャサリン・マンスフィールドの自然観: 「湾にて」について」

- 『Infinity』(津田塾大学大学院 Infinity 同人会) 17.
- 1990年10月 「Katherine Mansfield と Virginia Woolf——人間の内界にたいする二人の関心について」『キャサリン・マンスフィールド研究』(日本キャサリン・マンスフィールド協会) 1: 103-120.
- 1991年3月 「Katherine Mansfield における In a German Pension の意味」『英米文学研究』(日本女子大学英語英文学会) 26: 9-22.
- 1991年3月 「『ダロウェイ夫人』における詩人の熱情」『ヴァージニア・ウルフ研究』(日本ヴァージニア・ウルフ協会) 8: 48-63.
- 1992年3月 「キャサリン・マンスフィールドとアイダ・ベイカーの関係について」『日本女子大学紀要文学部』(日本女子大学文学部) 41: 37-52.
- 1993年3月 「Katherine Mansfield における芸術家像の変化」『日本女子大学紀要文学部』(日本女子大学文学部) 42: 25-37.
- 1994年3月 「Katherine Mansfield における self 観」『英米文学研究』(日本女子大学英語英文学会) 26: 9-22.
- 1995年3月 「Katherine Mansfield とフェミニズム——『ドイツの宿にて』執筆時をめぐって」『日本女子大学紀要文学部』(日本女子大学文学部) 44: 67-78.
- 1995年3月 「「幸福」におけるパール・フルトンの意味」『Infinity』(津田塾大学大学院 Infinity 英文学会) 20: 48-64.
- 1995年9月 「ヴァージニア・ウルフとキャサリン・マンスフィールド——自己認識の相違の意味」『ヴァージニア・ウルフ研究』(日本ヴァージニア・ウルフ協会) 12: 27-42.
- 1998年3月 「キャサリン・マンスフィールドの短編における芸術と人生の関係」『日本女子大学紀要文学部』(日本女子大学文学部) 48: 61-74.
- 1999年3月 “The Relationship between Art and Life in Katherine Mansfield’s Short Stories”『日本女子大学紀要文学部』(日本女子大学文学部) 48: 61-74.
- 2000年3月 「キャサリン・マンスフィールドとダンディズム——演技と自己認識のメカニズムをめぐって——」『英米文学研究』(日本女子大学英語英文学会) 35: 209-224.
- 2002年3月 「Kate Sheppard と New Zealand 女性参政権運動」『英米文学研究』(日本女子大学英語英文学会) 37: 83-96.
- 2003年3月 「オリバー・シュライナーと社会ダーヴィニズム——『女性と労働』のフェミニズム」『文学研究』(津田塾大学大学院「文学研究」同人会) 30.

- 2005年11月 分担「イギリスの「新しい女」——『ウォレン婦人の職業』をめぐる——」『日本女子大学総合研究所紀要』8: 65-69.
- 2006年3月 「ビジネス・ウーマンとしてのピートルクス・ポター」『英米文学研究』（日本女子大学英語英文学会）41: 55-67.
- 2006年3月 「ヴィクトリア朝パットブームと犬泥棒」『日本女子大学紀要文学部』（日本女子大学文学部）56: 15-30.
- 2011年3月 「ヴァージニア・ウルフの『フラッシュ』——犬の誘拐とケネルクラブ——」『文学研究』（津田塾大学『文学研究』同人会）37: ○○-○○○.
- 2012年3月 「生体解剖反対運動におけるフランシス・パワー・コブの主張」『英米文学研究』（日本女子大学英語英文学会）47: 95-114.
- 2013年3月 「キャサリン・マンスフィールドにおける他者認識」『南半球評論』（オーストラリア・ニュージーランド文学会）28: 66-78.
- 2014年3月 「Katherine Mansfield におけるパケハのイギリス志向: “A Woman at the Store” と “Millie” を中心に」『日本女子大学紀要文学部』（日本女子大学文学部）63: 37-47.
- 2014年3月 「“The Affectionate Kidnappers” における Witi Ihimaera の狙い: Katherine Mansfield の “How Peal Button was Kidnapped” との違いをめぐる」『英米文学研究』（日本女子大学英語英文学会）49: 113-123.
- 2017年3月 「キャサリン・マンスフィールドのニュージーランド像」『南半球評論』（オーストラリア・ニュージーランド文学会）32: 5-21.
- 2017年3月 「肉食とヴェジタリアニズム: キャサリン・マンスフィールドの『ドイツの宿にて』」『日本女子大学紀要文学部』（日本女子大学文学部）66: 59-69.
- 2018年11月 「サフラジェットと〈女らしさ〉」『総合研究所紀要』（日本女子大学総合研究所）21: 119-188.
- 2020年1月 「ウィーダの女性観——セーラ・グランドとの「新しい女」論争」『文学研究』（津田塾大学『文学研究』同人会）40: 146-160.

口頭発表

- 1985年10月 「*To the Lighthouse* をめぐって」日本ヴァージニア・ウルフ協会第11回全国大会
- 1989年10月 「キャサリン・マンスフィールドとモダニズム」日本キャサリン・マンスフィールド協会第2回全国大会

-
- 1992年10月 「ヴァージニア・ウルフの短編を読む」日本ヴァージニア・ウルフ協会第11回全国大会
- 1994年10月 「ヴァージニア・ウルフとキャサリン・マンスフィールド——「存在の瞬間」をめぐって」日本ヴァージニア・ウルフ協会第14回全国大会
- 1997年5月 「Katherine Mansfield における Oscar Wilde の影響」日本英文学会第69回全国大会
- 1998年3月 “‘Epiphany’ in Katherine Mansfield’s Short Stories.” University of Cambridge, English Faculty, Society for Visiting Scholars
- 2003年3月 「ポターの生涯とイギリス女性史」『ピーター・ラビットは時空を超えて——近代絵本の諸相——』日本女子大学学術交流研究会
- 2003年12月 「欧米の〈新しい女〉の諸相」『日本と世界の〈新しい女〉たち——日本女子大学校と『青鞥』の時代』日本女子大学総合研究所研究発表会
- 2007年6月 「Ouida と生体解剖反対運動」日本イギリス児童文学会東日本支部2007年度春の例会
- 2008年3月 「イギリスにおける『新しい女』の誕生」『『青鞥』と世界の新しい女たち』日本女子大学文学部学術交流会研究会
- 2009年3月 「ウィーダの動物愛護精神」日本比較文学会東京支部3月例会
- 2013年2月 “Rosemary Fell’s Game: in Mansfield’s ‘A Cup of Tea’” International Katherine Mansfield Conference, Wellington: Victoria University of Wellington
- 2015年12月 「生体解剖反対運動と女性」第25回イギリス女性史研究会シンポジウム（「女性と動物——動物の苦痛への共感から反生体解剖運動へ」）

翻訳

- 2008年1月 レイ・ストレイチー『イギリス女性運動史：1792-1928』みすず書房、第14章「行政の欺き」（220-237頁）担当。

書評

- 2013年3月 *Katherine Mansfield and Literary Modernism*. 「キャサリン・マンスフィールドと文学におけるモダニズム」*Studies in English Literature* (日本英文学会) 54: 93-98.
-

 事典・エッセイ、その他

- 2001年12月 「キャサリン・マンスフィールドの描く子供の世界——『人形の家』を中心に——」『辞游 File』辞游社15号。
- 2007年11月 「Ouidaと生体解剖反対運動」『日本イギリス児童文学学会報』2007年秋号：9-10。
- 2012年12月 「菌類・キノコの研究者ピアトリクス・ボター」『絵本BOOK-END』2012、16-19。
- 2014年3月 「解題：『The Collected Fiction of Katherine Mansfield』刊行の意義」『南半球評論』（オーストラリア・ニュージーランド文学会）29：17-19。
- 2017年4月 「フランシス・パワー・コブ（1822-1904）とモナ・ケアード（1854-1932）」（シンポジウム「女性と動物——動物の苦痛への共感から反生体解剖運動へ」報告記録）『女性とジェンダーの歴史』4：50-56。
- 2020年3月 コラム「ヴェジタリアニズムと女性参政権の女性たち——レディコンスタンス・リットンの場合」『イギリス20世紀初頭の女性群像』共編、音羽書房鶴見書店、31-32頁。

講演等

- 2016年11月 「マオリとバケハの共生を願って——ケリー・ヒュームの先駆者としてのキャサリン・マンスフィールド」オーストラリア・ニュージーランド文学会秋季大会。
- 2017年10月 「イギリスにおける女性参政権運動」婦人国際平和自由連盟主催、映画「未来を花束に」の解説と講演。
- 2018年12月 「Katherine Mansfieldのニュージーランドに寄せる思い」大学院英文学専攻課程協議会第52回研究発表会。
- 2019年9月 「女性と思いやり：動物をめぐる。アンナ・シユエール『黒馬物語』」イギリス女性ライティング研究会第4回研究会。
-